

令和7年度 上戸小学校 現職教育

1 研究主題

研究主題 思いを伝え合い、主体的に学ぶ子をめざして
～考えを関連付け、根拠や筋道を明確に表現する力の育成～

2 研究の具体

○研究主題設定の理由

これまでの研究では、算数科を中心として進め、「はてなトーク」「リレートーク」、さらに昨年度の「対話」に視点を置いた活動づくりを通して、児童は自分の考えをもち理由を加えて話すことができるようになってきている。しかし、その内容については、根拠が適切でなかったり、あいまいだったりすることがあった。

そこで、今年度は、これまでの研究を継続しながら、課題解決の際に児童主体の話し合いの中で自他の考えをつなげて深める場面を増やすとともに話し合ったことを再度自分で話したり書いたりして表現させる場面を設定する。このような対話的な活動を通して、考えを関連付け根拠や筋道を明確にして表現する力が育成されると考える。

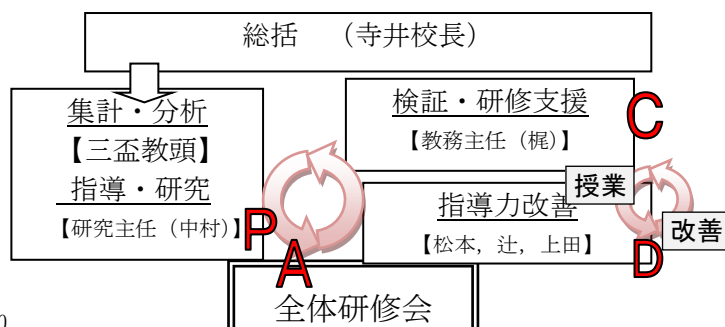
さらに主体的な学習になるように課題解決に向けて自ら見通しをもって学習方法を選択する場面を設定する。

また、今年度は、算数科の授業づくりを基盤としながら、他教科へも研究の領域を広げ、主体的・対話的に学びに向かう姿をより確かなものとしたい。

○めざす子ども像

- ・見通しをもって粘り強く取り組む子
- ・考えを関連付け、根拠や筋道を明確に表現する子

○研究組織



○研究内容

(1) 授業づくり

上戸小授業スタイルの共通実践 ※複式だけでなく単式授業でも

学びの4段階をもとにした授業構成により児童の主体性を高める。

「つかむ」…既習内容の比較・活用、学習計画をもとにした課題の把握
解決方法の見通しを持たせる。

「考える」…相手を意識し、簡潔に自分の考えをまとめる。

「深める」…自分の考えを表出（相手に伝わるように）し、考えを深める。

（発問・学習形態の工夫）

「活かす」…学習を自分の力でまとめる。学習をふりかえる。

（低…キーワードで、中…書き出しに続けて、高…自分で）

(2) 基盤づくり

①学習規律や学習習慣の確立 ⇒上戸小学習のルールの毎月のチェック

・相手を意識した話し方、聞く姿勢の確立

②家庭学習の充実 目標時間：低学年30分 中学年40分 高学年60分

・自学ノートの取り組み：授業とリンクした家庭学習

③朝学習の取組（8：10～8：25）月・金：言葉・読書 水：計算チャレンジ 木：漢字チャレンジ

④国語検定、算数検定の実施⇒年2回（長期休業後）の実施

⑤読書活動の充実⇒目標年間100冊（基準1学期30冊・2学期40冊・3学期30冊として検証する）

⑥短作文の取組、作文ノートの活用